

愛ちゃん と 希望くん



やわたはま

社協だより

53

平成27年1月1日

《発行》社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会 八幡浜市松柏乙 1101 番地
八幡浜市保健福祉総合センター2階 TEL 23-2940 FAX 23-0506
ホームページは [八幡浜市社協](#) まで



謹 賀 新 年



健康クラブ しあわせ班



子育てサロン



障害者スポーツ大会
サウンドテーブルテニス



ボランティア
ワークキャンプ



本年もたくさんさんの笑顔に出会えますように。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年も、地域福祉活動をさらに飛躍させながら、住民主体のまちづくりに努めてまいりたい所存です。

新年あけましておめでとうございます。地域住民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



八幡浜市社会福祉協議会
会長 菊池 清之

「心の健康づくり」
地域に広がり



大勢のご参加ありがとうございました

平成26年10月31日(金) 13時30分
から、八幡浜市保健福祉総合センター
4階多目的ホールで平成26年度ふれ
あい・いきいきサロン事業第1回お
世話人研修会・こころの健康講座を
開催しました。(八幡浜市社会福祉協
議会・八幡浜市保健センター共催)
当日は、市内68ヶ所で活動されて
いるふれあい・いきいきサロンのお
世話人と、地区社会福祉協議会等の
サロン関係者を対象に、総勢98名が
一堂に集まりました。

今回の研修会は、高齢期の心身の

特徴を知り、自分たちの生活を振り
返りながら、心の健康に良い生活や
考え方の確認をしていただくこと、
また、学んだことを地域に持ち帰り、
サロン活動やそれぞれの生活に活か
していただくことを目的に、八幡浜
市保健センターで実施されている「こ
ころの健康講座」との合同開催とな
りました。講師には、八幡浜医師会
立双岩病院の精神科認定看護師、渡
辺とよみ氏をお迎えし、心の健康づ
くりについてご講演いただきました。
参加者からは、「加齢や老化といっ
た、ともしれば暗くなりがちな話を、
楽しく、明るく、分かりやすく教え
ていただき、とても勉強になりました
た。サロンでも、まずは世話人の私



講師の渡辺とよみ先生

が、明るく笑顔で行動したいと思
います。「心の沈んだ人には、『一生懸
命』励ますことより『一緒に懸命』
にすること、一緒に寄りそうことが
大切だと理解することができた。」な
どの声が寄せられました。
今回の研修会を機に、地域のサロ
ンの中で「こころの健康講座」を希
望する声もあり、社会福祉協議会と
しましても、今回の研修会を通して、
心も体もいきいきとした彩りある人
生を考える機会として、それぞれの
地域に広がっていくことを願って
います。



講演後の質疑応答の様子

ふれあい・いきいきサロンとは

ふれあい・いきいきサロンとは、
参加する一人ひとりがともに楽し
い時間を過ごしながら「地域の一
員」としての気持ちを持ち、地域
の中のつながりをもう一度作って
いくこと、そして地域の助け合い
が広がっていくことのきっかけの
場です。

「気軽に」「無理なく」「楽しく」
をモットーに、生きがいづくりや
介護予防を目的として、自由な活
動を行っています。
現在、市内には68サロンが展開
されています。



学校で学ぶ福祉
知る多様な個性

八幡浜市社会福祉協議会では、市内のボランティアさんにご協力いただきながら、学校や地域に向向いて福祉に関する講座を行っています。

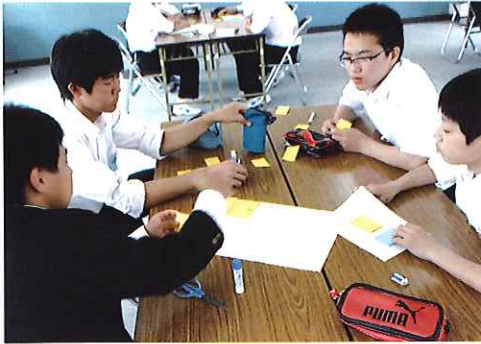
八代中学校3年生

「福祉・ボランティアって

なんだろう」

八代中学校3年生の内「ボランティアコース」を選択した生徒に対して、平成25年度より、福祉観やノーマライゼーションの視点を養うために授業を行っています。

今年度も、21名を対象に、ボランティア・赤い羽根共同募金・障害・認証等について体験やグループワークを中心に全9回の授業を行いました。



話し合ったり、体験したり…
時間をかけて考え、学びました

神山小学校4年生

「耳が聞こえない世界って?」
「年をとるってどういふこと?」

平成26年11月27日(木)、手話サークルあゆみの会の藤高清美氏にご協力いただき、耳の聞こえと手話についての授業を行いました。

翌28日(金)には、高齢者疑似体験と、認知症についての授業を行いました。認知症についての絵本「いつだって心は生きています」大切なものを見つけよう」の朗読では、朗読ボランティアアズンぐりの二宮園枝氏にご協力いただきました。

漠然としたイメージはあっても、なかなか学ぶ機会のない「福祉」や「障害」を知り、誰もが多様な個性を認め合い、支え合うことができるよう、より福祉教育の推進が求められます。



時に楽しく、時に真剣に学びます

障害者スポーツ大会



平成26年11月30日(日) 9時30分から、八幡浜市民スポーツセンターで平成26年度障害者社会参加促進事業スポーツ大会を開催しました。(八幡浜市社会福祉協議会・八幡浜市ボランティア協議会共催)
今年度も、八幡浜市中心身障害者(児)団体連合会の会員及び八幡浜市ボランティア協議会加盟団体の会員等、計84名という多くの参加をいただき、シャッフルゴルフとサウンドテーブルテニスを通して、今年もにぎやかに交流しました。

〔シャッフルゴルフ〕



交流とはいえ、勝負となると真剣です!

〔サウンドテーブルテニス〕



ボールを打った時に発する音を頼りにラリーします

私たちは社会的孤立とどう向き合うか
市民と専門職が生活困窮者支援を共に学び考えました



平成26年11月4日(火)13時30分～16時、JAにしろわ会館において、「平成26年度 地域福祉活動推進研修会」誰ひとり孤立しない社会をめざして」を開催しました。(八幡浜市社会福祉協議会主催)

民生児童委員、主任児童委員、見守り推進員、高齢者・障害者福祉事業所、市民後見人養成講座受講生・修了生、行政、地区社会福祉協議会、八幡浜市市社会福祉協議会理事・評議員等約150名の出席をいただきました。

平成27年4月から、原則、各市が実施主体となり、生活困窮者自立支援法の取り組みが始まります。同法第2条において、「生活困窮者とは、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者」と定義されています。

経済的に困窮されている方は、複合的な生活課題を抱えており、表面的な経済的課題のみに対応しても本質的な解決は難しいとされています。そのため、経済的課題の解決をはかることはもちろん、社会的孤立の解消に向け、地域住民、専門機関、商工関係、行政等が取り組んでいく必要があります。なぜなら、世の中の仕組みは複雑になり、個人や世帯の自助努力だけでは解決できない課題が多く、経済的困窮や社会的孤立は誰もおちいる可能性が高いからです。また、縦割りの制度では、市民の安全で安心な生活を支えきれなくなっています。

そのため、ひきこもり、ホームレス、自殺企図、自己破産、ゴミ屋敷に至る生活課題に、同法が果たす役割が期待されています。

同法の実施を前に、本市においては、平成26年度から、八幡浜市より八幡浜市社会福祉協議会が委託を受け、生活困窮者自立支援促進モデル事業に取り組んでいます。同法の正しい理解、八幡浜市における事業の取り組みの報告、本市における今後の生活困窮者支援のありかたをみなさんで考える機会として、研修会を開催しました。同法の策定や従事者の養成に携わっておられる大阪市立大学大学院生活科学研究科 岩間伸之教授に基調講演をお願いしました。

・ 本当に困っている人は「助けて」といえず、自尊心を失っています。課題解決のために使える制度やサービスが分からない状態です。

・ また、軽度の発達障害や知的障害、精神障害等を本人が認識していない方が多いです。健康状態もよくありません。

・ そのため、生活困窮を経済的困窮のみにとらえるのではなく、市民の生活の困りごとを広く受けとめ、解決に寄り添い、つないでいく相談機能が必要です。

・ 地域で気軽に相談できる場所づくり、地域住民による見守りの充実により、困りごとの早期発見・早期解決につながります。



大阪市立大学大学院 岩間伸之教授

その場所に専門職や行政も加わっていくスタイルになりつつあります。

・ これからの地域福祉は、市民一人一人が権利侵害や消費被害、重篤な生活状態におちいる前に、問題を発生させないという予防の観点で、新しい切り口になります。そのために地域住民の理解と参加が不可欠です。

・ 生活困窮者の支援が充実するということとは誰もが安心して暮らせる八幡浜市の実現につながります。まちづくりという観点で、市民や行政、社協、様々な職種・団体が一体となって、生活困窮者支援にとりくむことが大切です。

シンポジウム「社会的孤立にどう向き合うか」では岩間教授にコーディネーターを務めていただきました。障がい者就業・生活支援センター施設長高石徳香氏と八幡浜市社会福祉協議会の相談員2名が、生活のしづらさを抱える市民への支援、関係者との連携、地域づくり等の実践を報告しました。高石氏は日々、障害者の就労支援に携わっておられます。障害あるなしにかかわらず誰もが働きたいという気持ちを止めないこと、ネットワークの大切さ、就労支援を通じて地域が変わっていくこと、地域の課題を強みに変えていくことなどをお話していただきました。

八幡浜市社会福祉協議会が現在取り組んでいる生活困窮者自立支援促進モデル事業において、生活困窮の実態調査や相談実績等は、次号以降で報告させていただきます。

出席者の声

- ・いつわが身になるか、興味・関心がわきました。
- ・民生児童委員さんの日々の頑張りに驚きと感謝の気持ちがあがりました。



写真左 就労支援の報告される高石氏

- ・まずは地域住民が関わりながら関係機関につなげていくことが大切だと思います。
- ・地域力を高め早期の段階で発見することが大切です。
- ・相談機関の周知が必要です。
- ・若者を対象としたサロンも必要ではないでしょうか。
- ・高齢者の見守りについては充実しつつありますが、SOSを出せない人へ手を差し伸べることが大切です。

**市民後見人養成講座基礎編
12名の修了生が権利擁護センターの仲間になりました**

平成26年11月1日(土)から11月29日(土)の間、市民後見人養成講座を開催しました。(八幡浜市社協主催)平成22年度から講座を開催しています。現在、修了生の内、4名の方が、八幡浜市社協の法人後見事業の支援員として、判断能力が十分でない方の金銭管理や手続き、生活支援に取り組んでいます。

今回は20名の申し込みがあり、12名の方が修了しました。実際に奥様の成年後見人を受任している方、障がいをもつ家族のために受講された方、不動産業の方、市民後見人として活動したい方など、受講希望は様々でした。

受講生の声

- ・大変勉強になりました。障がいの娘を抱えている身としては、後見人としても、また、今後障がい者のグループホームをやっているところと考えている者として、大変参考になりました。
- ・とてもよい講座でした。地域住民が成年後見制度を理解し権利擁護の意識を向上させるため、

このような講座や企画をもっと行ってほしいと願っています。今年度は修了生を対象に、市民後見人養成講座実務編を企画しています。実務編終了後は、法人後見事業の支援員としての活動や市民後見人材バンクの登録を行います。

支援員になつていただかなくとも、講座で学んだことを家族や隣近所のために活かしていただく大切な役割を担っていただくこととなります。市民後見人の活動は家庭裁判所が認めることが条件です。そのため、八幡浜市や八幡浜市社会福祉協議会の取り組みを家庭裁判所に認めていただくよう交渉していく予定になっています。



修了証を受け取る菊池加代子さん

躍動！感動！感謝！
長崎がんばらんなば大会 精神障害者バレーボールチーム

平成26年11月1日(土)～3日(月)、長崎県にて、長崎がんばらんなば大会(第14回全国障害者スポーツ大会)以下、大会)が開催され、愛媛県からも中四国ブロック大会を勝ち上がった多くの選手が参加しました。

長崎県への移動に八幡浜から船を利用されることで、見送りには白浜保育所の子どもたちがはじめ、多くの市民のみなさまが手を振り、声援を送られていました。



旅立つ選手・スタッフへ手を振って見送り

練習や試合をとおして培った

チームの力

大会の種目は多数ありますが、ここでは初出場となった精神障害者バ

レーボールチームにスポットを当て、ご紹介します。

愛媛県内には精神障害者のバレーボールチームは20程あり、男女混合で実施され、ソフトバレーボールで試合が行われます。八幡浜市でも「オレンジスターズ」というチームが活動しています。愛媛県で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、平成25年10月、「選抜・強化チーム」が結成されました。

結成後は、他県のチームとの交流試合や、気持ちの入った練習を重ね、チーム力はどんどん向上していきました。そして、中四国ブロック大会で見事完封勝利をおさめ、大会への切符をつかまれました。

長崎の地で育まれた絆・
生まれた絆

大会中、選手・スタッフは声をかけ合い、真剣に取り組まれました。試合には出場することができなかった選手も、休憩中にはタオルや飲み物を手渡し、励ましの言葉をかけ、チーム一丸となって臨みました。試合結果としては、一回戦に対戦した

大阪府チームにセット数1ー2で惜しくも敗れましたが、一進一退の攻防が繰り広げられました。

本選翌日、交流試合も2戦行われ、全ての選手が大会の雰囲気味わうことができました。2戦とも勝利を収め、内1戦では皇太子殿下にもご観戦いただき、選手の勇姿をご覧いただくこともできました。

大会を通して選手とスタッフの絆も深いものとなりました。同行したサポートスタッフに対して、帰りの船の中で選手から素敵な写真とメッセージのプレゼントが送られました。

また、愛媛県の選手に現地のスタッフ1名、大学生ボランティア3名が付き添ってくださり、現地のことから分からない選手やスタッフを、心を込めて支えてくださいました。大会が終わり、愛媛に帰る際には、別れ



声援を受け、果敢に攻める選手たち

を惜しむ姿も見られました。

大会から感じたあたたかさ

地域の力

開催地の地域力にも驚かされました。開会・閉会式会場には、地元の小学校や特別支援学校の生徒が各県をイメージして描いた旗が飾られていました。会場にも多くの市民が応援に訪れ、声援を送って下さいました。

それぞれ自身の体調や病状と相談しながら臨まれた大会でしたが、力を合わせて絆を深め、自信につながったようです。今大会を持ってチームは一度解散されますが、それぞれの病気と向き合いながら向上され、3年後の愛媛大会では、素敵なプレーを見せてくださることでしよう。



笑顔の選手・スタッフ・ボランティアさん

2017年
(平成29年)

第17回全国障害者スポーツ大会 「愛顔つなぐえひめ大会」開催!



平成29年10月28日(土)～30日(月)の3日間、愛媛県で全国障害者スポーツ大会が開催されます。

＊全国障害者スポーツ大会とは：障害のある選手が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的に開催される、「国内最大の障害者スポーツの祭典」です。

オリンピック終了後に開催されるパラリンピックのように、毎年、国民体育大会終了後に開催されています。

9月30日(土)～10月10日(火)に開催される第72回国民体育大会(愛顔つなぐえひめ国体)後に開催されるこの大会は、県内各地を会場とし、様々な競技が展開されます。

そして八幡浜市では、前項で紹介した精神障害者のバレーボールが八幡浜市民スポーツセンターにて行われることとなりました!八幡浜市で開催される唯一の競技です。様々な競技の中で、精神障害者の出場す

ることのできる競技はバレーボールのみです。真摯な選手たちの姿を、ぜひ会場でご覧ください。

今年、長崎県で愛媛県選手団が受けたあたたかな歓迎を、八幡浜市でもぜひ実現しましょう。3年後の開催ではありませんが、大会の基本目標である、

○誰もが「絆」を実感できる大会を創ろう!

○みんなの「愛顔」があふれる大会を楽しもう!

○未来へはばたく「新しい自分」を見つけよう!

の実現に向け、大会を盛り上げていきますように!

＊大会の詳細は…＊

<http://www.ehimekokutai2017.jp/>

えひめ国体

検索



真穴の子どもたちから 今年も美味しいみかんが届きました



毎年、真穴小学校児童会・真穴中学校生徒会のみなさんが、11月をお手伝い月間とし、様々なお手伝いを頑張ったご褒美として地域の方々からもらったみかんを、市内の福祉施設などに配られています。また、東日本大震災支援として、宮城県山元町の小中学校へも、発送されています。

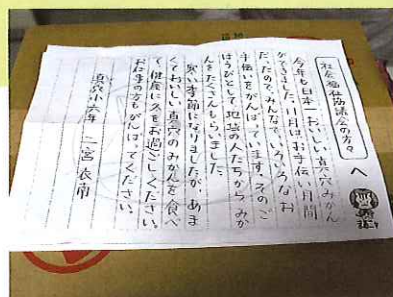
今年も真穴小学校6年の二宮衣南さんが、先生と一緒に、甘くて美味しいみかんのたくさん詰まった箱に手書きのお手紙を添えて、届けてくださいました。



二宮さんと寺岡先生から笑顔と一緒に受け取りました



あま〜みかん、毎年ありがとう



手書きのメッセージを添えて

平成26年度 八幡浜市社会福祉大会

とき／平成27年1月24日（土）
場所／八幡浜市民会館 大ホール

本大会は、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現に向けた活動に、一人ひとりが考え参画する機会と、八幡浜市の社会福祉の発展にご尽力され、多大な功績を残された方々に感謝をこめて表彰し、地域福祉のさらなる充実を図ることを目的に開催いたします。

時間	内容
12:30	開場・受付
13:30	開会 式典 表彰・感謝状贈呈 他
14:30	記念講演
16:00	閉会

記念講演 お気軽にお越しください（入場無料！）

第1部 演劇

演目 「おばあちゃんが、おらんった…」

～認知症のおばあちゃんと家族がおりなす物語～

おばあちゃんは、やっぱり大切なみんなのおばあちゃん。

大丈夫!! 大丈夫!! 安心すること間違いなしです。

演者 坊っちゃん劇場「完熟一期座」



■ 劇団プロフィール ■

完熟「一期座」とは、40歳以上を対象とした熟年劇団です。年齢を重ねてきた人々が、自らの経験と培ってきた“こころ”で表現し演技の中で新しい自分を発見する、熟年だからこそできる舞台を目指しています。舞台に興味を持つ人、かつて舞台に上がっていた、一度舞台に上がってみたい、舞台に係わる仕事・作業をしてみたい。そんな思いを持つ人々の集団です。各種イベントでの公演や、福祉施設などでの公演も行っています。

支え合い、結びあう手と手、
交わりあう、やさしい心と心
笑いあり、涙あり
人生まだまだ! 人生これから!

第2部 講演

演題 「生活習慣病と認知症予防」

講師 旭町内科クリニック 院長 森岡 明 先生



■ プロフィール ■

福岡県北九州市生まれ。近畿大学薬学部卒業後、学校共済四国中央病院；病院薬剤師として勤務。昭和57年、香川医科大学（現：香川大学）医学部入学。昭和63年卒業。いくつかの大学関連病院に勤務後、総合医として僻地医療を希望。平成8年には大久診療所赴任。平成23年旭町内科クリニック開業。在宅医療、外来診療に積極的に取り組む。

■ 資格 ■

日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリケア連合学会認定医・指導医、厚生労働省認定認知症サポート医、日本糖尿病協会登録医 他